猿とキジの寄合い田

猿とキジと寄合い田つくることにしたんだどや。したっけキジが猿に、
「きょう田打ちに行ぐで」
たば、
「疝気おぎで行げません」
そう言われて、キジばり行って田打ってきて、
「きょう田こぎりに行ぐ（土をきざんで平らにならす）」
てば、
「せんきおぎで行げません」
「きょう田掻くに行ぐ」
てば、
「せんきおぎで行げません」
いっつも猿行かねで、キジばっかり行った。
「きょう田植だはんて行ごで」
てば、
「せんきおぎで行げません」
「きょう田の草とりに行く」
てば、
「せんきおぎで行げません」
いっつも猿行かねくてキジばっかり行って、まがだせで、(注)
「きょう稲刈りだ。行ごで」
「ハイ」
ってそのどきちゃんと行って、稲分ける段になったが、
「これ、おれわける。
猿二把　キジ一把
猿三把　キジ一把」
みんなおらほばりえっぺにして、キジ、音だせばおっかねど思って、
チーといたわしくして、冬うぢ食うど思って、ツコツコとつづいで
ずっとつついでいたば、猿、デロッとみな食いあげで、
「キジ、キジ、おれのなぐなった。おがのチーとけれじゃ」
「おれのなぐなるもの」
「チーとけれ」
また、
「チーとけれ」
「おれのまだなぐなるもの」
「チーとでえ」
チーとければ、まだ何回もそうして来て、
「あどこんだ、ねくてけれね」
たば、こんだ、
「おがど晩げ夜討ちうちに来るはで、おべでれよ」
キジ、こまった、こまったて梁の上さあがって泣いでいだば、
「キジのホロロ、なして泣ぐ」
って栗だのハチだのウスだのベタクソだのって来て、かだぎとってけだどや。
(注)まがだせで～仕事の仕末をさせる